

佐賀県における

中学校武道必修化に向けた取組

佐賀県教育庁学校教育課

武道必修化に向け、佐賀県では、平成21年度から文部科学省委託の「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」事業に取り組んできました。地域の武道指導者と連携し、礼法等の武道の特性に触れさせたり、指導の工夫をすることにより、生徒に武道の楽しさを味わわせたりして、技能の習得と安全で効果的な授業のモデルづくりを行い、円滑な武道指導を目指しています。

ここでは、その取組についてご紹介します。



1 はじめに

武道は、武技、武術等から発生した我が国固有の文化であり、我が国の文化や伝統を尊重する態度

を身に付けさせ、自らが自らを律する精神を鍛え、同時に相手を尊重する人間性を養うなど、児童生徒の健全な発達を促すうえで重要な役割を果たすものである。

平成20年3月に改訂された新しい中学校学習指導要領では、第1学年及び第2学年で、武道をはじめとするすべての領域を履修することが示され、すべての生徒が武

道の特性を身に付けるための指導内容を明確にするなど、更なる指導者の指導力の養成と授業の工夫を促す必要がある。

このことから、本県でも、教員の武道の基礎的・基本的な技能の確実な習得と活用及び専門性と武

道の指導力の向上のため、武道指導推進協議会や学校体育武道指導者養成・認定講習会、学校体育な

ぎなた指導者養成講習会を開催し、武道授業の充実を図っている。

実践を行った。

2

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」事業について

そこで、平成21年度より文部科学省委託の「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」事業

い、取り組んできました。

を活用し、より安全かつ円滑な実施に向け、新学習指導要領に対応した単元計画の在り方や地域の指導者との連携の在り方、担当教員の指導力向上の方策の在り方、学習環境の整備と授業の工夫改善等について、具体的な実践研究を行

研究実践校は、柔道4校、剣道5校、相撲1校、なぎなた1校で研究実践を行った。なお、唐津市立相知中学校における「剣道」、佐賀市立川副中学校における「なぎなた」の取組が文部科学省のホームページに実践事例として掲載されている。

3

研究実践校の取組から

研究実践校の中から、佐賀市立川副中学校における地域の武道指導者や近隣の高等学校と連携を図

った「なぎなた」の研究実践について紹介する。なお、川副中学校は「剣道」と「なぎなた」での研

(1) 武道講演会

武道授業の導入として、武道への興味・関心を高めるために武道講演会を開催した。

剣道の専門家でもあり、自分の学校の校長・教頭による気迫のこもった日本剣道形の模範演技やわかり稽古に、生徒も感動していた。「なぎなた」については、近隣の高等学校なぎなた部顧問教諭と生徒、地域のなぎなた指導者により

基本となる技の模範演技や「リズムなぎなた」の実演、「なぎなた」の歴史や特性についての講義を行ったことにより、「早く、やってみたい」という生徒が増え、より取り組みやすくなった。

学校全体としての取組や地域の武道指導者、高等学校の連携協力により、生徒の武道に対する関心・意欲が高まったものと考えられる。

(2) なぎなたの指導

① 研究の目的



武道演武会で校長・教頭が日本剣道形を披露



武道演武会でのなぎなたの模範演武

「なぎなた」への興味・関心を高めさせる手立てをとり、地域のなぎなた指導者との連携を図り、「なぎなた」の扱い方や基本となる技の習得、さらに得意技をもちいでしかけたり、応じたりしながらの攻防を展開できるような生徒の学びの姿を求めた。

②具体的な研究内容

「なぎなた」については、保健体育担当教員自身も経験がなかったため、地域のなぎなた指導者や高



なぎなた授業風景

等学校の指導者との連携を密に行い、授業の計画を立てた。第1学年と第2学年は、初めて手にする「なぎなた」の扱い方や基本の構え(半身)について重点を置き、基本動作や基本技となる打ち返しやしかけ応じの習得と「リズムなぎなた」に触れさせる指導計画を立てた。第3学年は、それまでの技能の習得に立ち、防具を付け、試合に結び付けるような指導計画を作成し、授業を展開した。

○身体を移動・回転させながら、繰り返しや繰り返しこみ、持ちかえなどのなぎなた操作で相手の部位を打突できるような練習の工夫

○学び合いの場面を多く設定することで、自らの課題を見付け、解決しようとする態度の育成にも力を入れるような授業の展開の工夫

○「リズムなぎなた」では、楽しさにも触れさせたいと考え、生徒の好む現代的な曲を選定

○防具を正確に素早く付けることができるような支援の手立ての工夫

など、練習方法の工夫や支援の手立てを工夫したことにより、生徒の意欲的・積極的な活動につながった。

③成果・課題

地域の指導者との連携により、生徒の実態に応じた指導計画の作成及び3年間を見通し、系統性を持った授業展開ができ、指導内容



なぎなた授業風景

の充実につながった。研究実践2年目を終えての成果と課題として、次のような点が挙げられる。

○成果

- ・地域の指導者との連携により、個別の指導やアドバイスを充実し、生徒が各自の課題を見付け、解決を図ることができた。
- また、しかけ応じの学習では、生徒自身が、打突のおもしろさを感じ、大きな発声で活動するなど、より積極的な活動を引き出すことができた。

・自由練習では、互いに教え合いながら主体的に学習できるようになり、毎時間の学習ノートの記録では、授業の満足度が80%を超える生徒が増えた。

・「リズムなぎなた」では、習得した技をグループで創意工夫し、楽しそうに演技に取り組んでいた。基礎的・基本的な学習内容をさらに発展させるためにも、「リズムなぎなた」の導入はとても効果があった。

・防具を付けての打突練習では、二段技や相手の打突に応じた技の練習を通して、打突のおもしろさを感じ、意欲的に取り組み、技術の向上につながった。

・単元構造図や指導と評価の計画を作成することにより、単元の中で何を生徒に身に付けさせるかが明確になり、目指す生徒の姿をイメージすることができ、効果的・効率的な評価ができた。

○課題

・地域の指導者との連携におい

4 おわりに

今回、「なぎなた」の研究実践について紹介したが、武道の必修化に伴い、武道を指導する教員の資質向上や地域の指導者等の確保、施設・用具の整備、授業展開における安全対策が今後の課題である。

現在、本県での公立中学校の武道場整備率は37・9%であり、市町立中学校の施設・用具の整備等については、武道指導の充実のために、国の補助事業を活用しながら各市町教育委員会と密に連携し進めているところである。なお、武道場がない学校については、安全上の配慮を十分に行い、体育館

いる学校が少ないために、「なぎなた」の授業を担当できる教員の養成及び確保が必要であると考える。

等で実施している。

武道指導は、「礼に始まり礼に終わる」といわれる礼法や伝統的な行動の仕方、お互いを尊重する態度などをしっかり理解させた上で行われるものである。特に、柔道の安全面の指導では、受け身をしっかりと身に付けたことを確認した上で、技の習得状況や生徒の心身の発育発達状況、体格差等を十分に踏まえ、段階的な指導を行うように各学校へ指導している。

- ①保健体育担当教員の指導力向上のための講習会の開催
- ②各学校での授業実施における



保健体育担当教員の指導力向上のための講習会

- 安全指導の充実
 - ③具体的な授業モデルづくり
 - ④指導方法の工夫及び指導内容の精選
- このような取組を通して、武道指導の充実と安全対策を図っており、今後もより一層生徒が安全で安心して学べる武道授業への支援をしていきたいと考える。

表1 第3学年における単元構造図

新学習指導要領に対応した単元構造図【F 武道:なぎなた】
佐賀市立川副中学校

① 単元名	中学校第3学年 武道(なぎなた)	
② 指導内容の概要	③ 学習指導要領の内容(第3学年)	④ 学習指導要領解説の記載内容(第3学年) ※なぎなたは解説には記載がないので、解説の内容をなぎなたに想定し記載する。
1 技能	(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。 なぎなたでは、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。	解説レベルの想定 指導に際しては、相対で体さばきを用いて、しかけ技や応じ技の基本となる技ができるように、約束練習、自由練習を通して行う。演技としてのしかけ応じを正しく行えるようにすること。(中略)相手の動きに応じた基本動作から既習技や得意技の上達を踏まえ、しかけ技や応じ技を用いた自由練習や簡単な試合で攻防できるようにすること。 「相手の動きに応じた基本動作」とは、相手の動きに応じて行う構えと体さばき、基本打突の仕方と受け方のこと。 <例示> ○基本動作 ・構えでは、相手の動きに応じて自然体から中段・八相・脇に構えること。(第3学年) ・体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足、踏みかえ足、開き足をすること。(第3学年) ・基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、打ったり受けたりすること。(第3学年) 「基本となる技」とは、しかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技のことである。 「得意技」とは、自己の技能・体力の程度に応じて最も打突しやすく、相手から効率的に有効打突を取ることのできる技である。 <例示> ○しかけ技 ・払い技 刃部または柄部で相手のなぎなたを払うこと。(第3学年) ・出ばな技 相手が出ようとする所を打つこと。(第3学年) ・二段技 2つの技を連続して打つこと。(第3学年) ○応じ技 ・抜き技 ・相手やすねを打つとき、体をかわして面を打つこと。(すね抜き面)(第3学年) ・相手が面を打つとき、体をかわしてすねを打つこと。(面抜きすね)(第3学年) <受け技> ・相手のすね打ちを柄で受け、斜め後方に抜いて側面を打つこと。(すね受け側面)(第3学年) ・相手の側面打ちを柄で受け、斜め後方に抜いてすねを打つこと。(面受けすね)(第3学年)
2 態度	(2) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、自己の責任を果たそうすることや自己の責任を果たすなど意欲をもち、健康や安全に気を配ること、健康や安全に気を配るとともに、健康や安全を確保すること、健康や安全を確保すること、健康や安全に気を配るとともに、健康や安全を確保すること。	・相手を尊重し合うための独自の作法、所作を単に守るだけでなく、礼に始まり礼に終わるなどの伝統的な行動の仕方を自らの意志で大切にしようとする。(第3学年) ・練習や簡単な試合を行う際に、防具や用具の準備や後片付け、審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとする。(第3学年) ・チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする。(第3学年) ・仲間の練習相手を引き受けたり、技の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間と話し合いしようとするなど、仲間の学習を援助すること。(第3学年) ・体調の変化などに気を配ること、危険な動作や禁止技を用いないこと、用具や練習及び試合の場所などの自己や仲間の安全に留意することや技の難易度や自己の技能・体力の程度に応じて技に挑戦することが大切である。(第3学年)
3 知識、思考・判断	(3) 伝統的な考え、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	【知識】 ・武道は、技を身に付けたり、身に付けた技を用いて相手と攻防する楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること。(第3学年) ・武技、武術などから発生した我が国固有の文化として今日では世界各地に普及していること。(第3学年) ・武道は、単に試合の勝敗を目指すだけではなく、技能の習得などを通して礼法を身に付けるなど人間としての望ましい自己形成を重視するといった考え方があること。(第1学年) ・武道の各種目で行われる技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあること。(第2学年及び第3学年) ・なぎなたでは主として脚力、敏捷性、巧緻性などがそれぞれの技に関連して高められること。(第3学年) ・ごく簡易な試合におけるルール、審判や運営の仕方があること。(第3学年) 【思考・判断】 ・活動の仕方、組み合わせ方、安全上の留意点などの学習した内容を、学習場面に適用したり、応用したりすること。 <例示> ・技を身に付けるための練習の行い方のポイントを見付けること。(第3学年) ・課題に応じた練習方法を選ぶこと。(第3学年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。(第3学年) ・学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめること。(第3学年)
内容の取扱い	力「F武道」の(1)の運動については、あらかじめの中から一つを選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分留意すること。	

第3学年の内容	
⑤ 授業のポイント(生徒への発問や声かけの仕方など)	学習活動に即した評価規準
<p>【中段の構え】 ・右手を上から左手を下から乗からか握って腕をブラブラさせよう。 ・手幅と肩幅、足幅は同じになっているかな。 ・前足はなぎなたのどこを向いているかな。一切先の</p> <p>【振り返し】 ・片手でなぎなたを持ち頭上で手首を返し8の字を描く。 ・半身から素早く正面を向いているかな。→ 相手</p> <p>【基本打突の仕方と受け方】 ・腕をストンとおろすことを忘れない。 ・脇構えから体となぎなたを一緒に、180度回転させ、両腕を伸ばすようにしよう。</p> <p>【二段の技】面・すね ・二段の技は動きが連続しないよう足の引きつけを速くしよう。</p> <p>【払い技・巻き落とし】 ・払うときは体さばきを使ってタイミングよく払おう。 ・なぎなたを体に添わせて元手の位置を確かめよう。</p> <p>【受け技】すね受け側面 ・左足を引ながら柄ですねを受けよう。 ・一歩目は小さく引いて、二歩目は大きく下がらう。</p>	<p>【運動の技能】A ①自然体・基本の構えができる。 ②相手の動きに応じて歩み足や送り足、踏みかえ足をすることができる。 ③しかけ応じ1・2本目、しかけ技や応じ技を行うことができる。 ④しかけ応じ3・4・5本目、しかけ技や応じ技を正確に行うことができる。 ⑤防具の正しい着装ができる。 ⑥二段技や応じ技を行うことができる。 ⑦得意技をつくり、試合で使うことができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 ①相手を尊重する気持ちを込めて礼をしようとする。 ②互いに練習相手をしたり、助言したりしようとする。 ③用具や練習場所などの安全に留意しようとする。 ④練習や試合を円滑に進めるために、自分の役割を果たそうとする。</p> <p>【知識・理解】 ①なぎなたの名称と打突部位について言ったり、書き出している。 ②それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントを言ったり、書き出したりしている。 ③試合のルールや審判の方法について言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【思考・判断】 ①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ②自己の課題に応じた練習方法を見付けている。 ③相対での練習や試合を行う上で、安全に留意した適切な行動を選んでいる。</p>
<p>【なぎなたの振り方】 振り方</p> <p>【構え(中段・下段・八相・脇構え)】 評価</p> <p>【基本打突の仕方と受け方】 評価</p> <p>【二段の技】面・すね 評価</p> <p>【払い技・巻き落とし】 評価</p> <p>【受け技】すね受け側面 評価</p>	<p>【防具の正しい着装(小手・すね当て)】 評価</p> <p>【打ち返し】 評価</p> <p>【振り返し】 評価</p> <p>【しかけ応じ1本目】 評価</p> <p>【しかけ応じ2本目】 評価</p> <p>【振り返し】 評価</p> <p>【しかけ応じ3本目】 評価</p> <p>【しかけ応じ4本目】 評価</p> <p>【しかけ応じ5本目】 評価</p> <p>【踏み足送り足】 評価</p> <p>【上下振り振り上げ面打ち・面受け振り上げすね打ち・すね受け八相面打ち八相すね打ち】 評価</p> <p>【防具装着(小手・すね・胴・垂れ・面)】 評価</p> <p>【地稽古】 評価</p> <p>【試合競技】 評価</p> <p>【まとめ】</p>
<p>【なぎなたの楽しさは、何だろう。】 なぎなたは、半身の姿勢から左からでも右からでもなぎなたを扱えることができる。なぎなたを持ち握ったり、長さを変えたりして実用ができる運動であること。打突部位が多く、技と動きが多様であるため、相手の動きに対応した攻防を行うところに楽しさや面白さを感じることができる。</p> <p>【なぎなたには、演技競技としてのしかけ応じ1本目から5本目までの形と相手と有効打突を競い合う試合競技があることを理解する。】</p> <p>【なぎなたは、何のために礼をするのだろうか。】</p> <p>【なぎなたで用いられる技とそのポイントは何だろうか。】</p>	<p>【なぎなたの基本的動作や技術のポイントを理解し、技の習得や攻防について工夫できるようにする。】</p> <p>【準備や後片付けを積極的に行おうとする】 評価</p> <p>【健康・安全に気を配る】 評価</p> <p>【相手を尊重する気持ちで礼をしようとする】 評価</p> <p>【相対でのしかけ応じの練習や攻防で自分の役割を果たそうとする】 評価</p>
<p>【学習してきたことをもとに、自分や仲間の課題を分析してみよう。】 なぎなたの基本となる技、相手の打突に応じた技</p> <p>【これまでの演技の練習や試合をしていて、危ないと感じたことはありましたか。防止するためには、どのようにしたらよいと思いますか。】</p>	<p>【技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける】 評価</p> <p>【自分の課題を見付ける】 評価</p> <p>【学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめる】 評価</p>
<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断】</p> <p>【知識・理解】</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
共通メニュー(準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認)体づくり運動の活用														
武道講演会	オリエンテーション	○基本となる技 振り上げ面・すね打ち しかけ応じ1・2本目 しかけ技(振り上げ面・すね、八相すね・面)	○基本となる技 振り返し 脇構え・胴打ち しかけ応じ4本目 しかけ技(八相すね、刃受け、払い技) 応じ技(振り上げすね抜き、面打ち、振り返し面)	○防具の装着(小手・すね当て) 打ち返し 基本打突 振り上げすね打ち(左すね・右すね) 踏み込みすねうち 小手打ち 二段技 応じ技 攻防	○防具装着(小手・すね・胴・垂れ・面) 地稽古 試合競技	まとめ								
<p>なぎなたの振り方</p> <p>身につけた基本動作や演技の基本となるしかけ応じの練習と防具着用で二段技や応じ技での攻防を行う。</p> <p>防具の正しい着装(小手・すね当て) ← 評価 →</p> <p>打ち返し 基本打突 振り上げすね打ち(左すね・右すね) 踏み込みすねうち 小手打ち 二段技 応じ技 ← 評価 →</p> <p>防具装着(小手・すね・胴・垂れ・面) 地稽古 試合競技 ← 評価 →</p> <p>まとめ ← 評価 →</p>														
<p>なぎなたの基本動作や相手の打突に応じた技を身に付け、攻防の楽しさや喜びを味わい、学習に積極的に取り組もうとする。</p> <p>相手を尊重する気持ちで礼をしようとする ← 評価 →</p> <p>準備や後片付けを積極的に行おうとする ← 評価 →</p> <p>健康・安全に気を配る ← 評価 →</p> <p>相対でのしかけ応じの練習や攻防で自分の役割を果たそうとする ← 評価 →</p>														
<p>なぎなたの基本的動作や技術のポイントを理解し、技の習得や攻防について工夫できるようにする。</p> <p>振り上げ面打ち 振り上げ正面打ち</p> <p>しかけ応じ1本目 しかけ応じ2本目</p> <p>しかけ応じ3本目 しかけ応じ4本目 しかけ応じ5本目</p> <p>振り返し 脇構え・胴打ち しかけ応じ4本目 しかけ応じ3本目 体さばき(踏みかえ足) 踏み込み しかけ応じ5本目</p> <p>打ち返し 二段技 面に対する応じ技 すねに対する応じ技</p> <p>得意技 試合</p>														
<p>学習してきたことをもとに、自分や仲間の課題を分析してみよう。 なぎなたの基本となる技、相手の打突に応じた技</p> <p>技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける ← 評価 →</p> <p>自分の課題を見付ける ← 評価 →</p> <p>学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめる ← 評価 →</p>														
<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断】</p> <p>【知識・理解】</p>														
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>														

表2 第2学年における指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
単元計画	武道講演会	○オリエンテーション ・歴史や特性について ・礼法 なぎなたの扱い	共通メニュー(準備運動, ストレッチ, 今日の学習の確認)									・簡単なリズムなぎなた ・創作リズムなぎなた発表会 まとめ			
			○基本動作 ・自然体, 構え(中段, 下段, 八相) ・体さばき (なんば歩き, 歩み足, 送り足) ○正面打ち ・振り上げ面打ちと受け方, 振り方			○基本となる技 ・打ち返し ・抜き技(すねの柄受けからの抜き技) ・抜き技(側面の柄受けからの抜き技) ・仕かけ応じ1本目 ・仕かけ応じ2本目			打ち返しの評価		仕かけ応じの評価				
			・八相からの側面打ち ・八相からのすね打ち												

時	指導内容と学習活動	学習活動に即した評価規準など			
		(ア)運動への関心 意欲態度	(イ)運動についての 思考・判断	(ウ)運動の技能	(エ)運動についての 知識・理解
1	学習の進め方やねらいを知る 1 武道講演会 ・講師を招聘し, 剣道・なぎなたの歴史や特性について模範演技をみて, イメージ把握				①なぎなたの特性や成り立ちを書き出している。 【学習ノート】
2	○運動の特性や学習のねらい, 計画, 内容を理解する。 ○なぎなたの学習準備をする。 1 オリエンテーション ・特性, ねらい, 計画 ・礼法・なぎなたの取り扱いについて知る。	①相手を尊重する気持ちを込めて礼をしようとする。 【観察】			④なぎなたの名称についてと打突部位について理解し, 書き出している。 【学習ノート】
3	相手の動きに応じた基本動作を身に付け, 基本打突の打ち方・受け方の練習を楽しむ。	⑤用具や練習場所などの安全に留意しようとする。 【観察】	①技を身に付けるための運動の行い方やポイントを見付けている。 【観察・学習ノート】	①基本姿勢(半身)になることができる。 ②相手の動きに応じて自然体から中段に構えることができる。 ③相手の動きに応じて歩み足や送り足を行うことができる。 【観察】	③それぞれの技を身につけるための技術的なポイントがあることを言ったり, 書き出している。 【学習ノート】
4	1 基本動作	②互いに練習相手をしたり, 助言したりしようとしている。 【観察】			
5	① 自然体				
6	② 構え: 中段, 下段, 八相, 脇 なぎなたの持ち方, 足の位置 ③ 体さばき 歩み足, 送り足 ④ 打突 ・上下振り ・正面 ・側面打ちと受け方(刃部, 柄部) 2 打ち返し				
7	相手の動きに応じた基本動作を身に付け, 気剣体一致の技で相手との約束の部位を正しく打突することを楽しむ。	③仲間の学習を援助しようとしている。 【観察】	②自己の課題に応じた練習方法を見付けている。 【観察・学習ノート】	⑤中段の構えから体さばきを使って, 面や側面, すねの部位を打ったり, 受けたりすることができる。 ⑥仕かけ応じ1本目で, 仕かけ技を正確に行ったり, 応じ技を正確に行うことができる。 【観察】	②身に付けた技を用いて相手と攻防する楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを書き出している。 【観察・学習ノート】
8	1 対人的技能(相対での基本技)	④危険な動作をしたり, 禁止技を用いたりしないで, 練習をしようとする。 【観察】	③相対での練習を行う上で, 安全に留意した適切な行動を選んでいる。 【観察・学習ノート】		
9	① 仕かけ技(1本目) ・面-すね (抜き技) すね抜き面 (受け技) すね受け側面	⑥練習を円滑に進めるために, 自分の役割を果たそうとする。 【観察】			
10	② 応じ技(1本目) ・すね-側面 (抜き技) 側面抜きすね (受け技) 側面受けすね				
11	③ 仕かけ技(2本目) ・すね-側面 (抜き技) 側面抜きすね (受け技) 側面受けすね				
12	④ 応じ技(2本目) (抜き技) 側面抜きすね (受け技) 側面受けすね 2 約束練習と自由練習 3 仕かけ応じの評価 方法: 2人一組で2回ずつ試技, 動きのできばえを判定				
13	基本となる技を用いて, 簡単なリズムなぎなたを楽しむ。	⑦グループの仲間と協力して, リズムなぎなたを完成させようとする。 【観察】	④提供された資料や仲間の助言から課題を見付けて練習方法を工夫している。 【観察・学習ノート】	⑦仕かけ応じ2本目で, 仕かけ技を正確に行ったり, 応じ技を正確に行うことができる。 ⑧基本となる技を用い, 音楽のテンポに合わせて動きを作ることができる。 【観察】	⑤リズムなぎなたの隊形や動きを書き出している。 【観察・学習ノート】
14	1 グループでリズムなぎなた ・音楽を与えてグループで創作				
15	2 学習のまとめ				